

令和2年度 指定管理施設に係る業務報告概要

施設名	千代田区立障害者福祉センター えみふる	所在地	千代田区神田駿河台2-5
-----	---------------------	-----	--------------

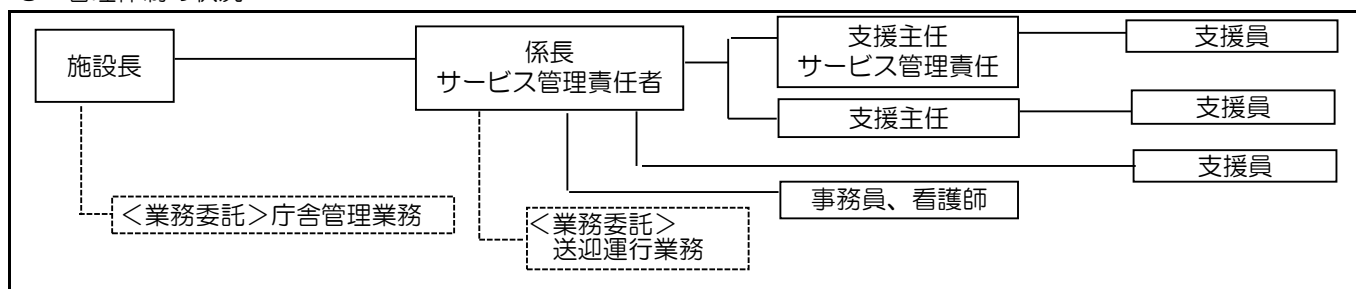
1 指定管理者の概要

名称	社会福祉法人 武蔵野会	代表者	理事長 高橋信夫
所在地	八王子市旭町12-4日本生命ビル2F		
指定期間	令和2年4月1日～令和12年3月31日	報告期間	令和2年4月1日～令和3年3月31日

2 管理施設の概要

施設の目的	障害者基本法の理念に基づき、身体・知的・精神の三障害及び難病の方々が地域で安心して自立した生活を営めるよう、一人ひとりのニーズに応じたサービスを提供するだけでなく、集い、交流を深めることで、互いに助け合い、高め合い、共に生きることの喜びを共有できる場として障害者福祉センターを設置する。
管理業務の内容	(1) 地域活動支援センター (2) グループホーム、ショートステイ、特定相談、生活介護 (3) 施設及び設備の保守、維持管理

3 管理体制の状況



4 事業実績等

(1) 開所日数等 (月平均)

	令和2年度	令和元年度	平成30年度
開所日数	28.9日	29日	28.9日
利用者数	1,390人	1,206人	1,193人

(2) 地域活動支援センター (I型) ・

ア 相談事業

(ア) 福祉相談

令和2年度	令和元年度	平成30年度
延655人	延514人	延218人

(イ) 健康相談

令和2年度	令和元年度	平成30年度
延342人	延78人	延19人

(ウ) 計画相談

令和2年度	令和元年度	平成30年度
延2,632人	延2,498人	延1,958人

イ ぶらっと御茶ノ水 (サロンドゥッチよだ事業)

令和2年度	令和元年度	平成30年度
延2人	延18人	延44人

ウ 療浴事業

令和2年度	令和元年度	平成30年度
延375人	延317人	延371人

エ 機能回復訓練事業

令和2年度	令和元年度	平成30年度
延495人	延606人	延362人

オ 講習会

令和2年度	令和元年度	平成30年度
延394人	延962人	延579人

カ 日中一時支援事業（スマイルちよだ、レスパイト、タイムケア）

令和2年度	令和元年度	平成30年度
延1,098人	延1,416人	延1,126人

キ 団体利用（自主活動）

令和2年度	令和元年度	平成30年度
延278人	延711人	延818人

ク その他事業（社会適応訓練事業、地域生活リハビリ事業、各種行事等）

令和2年度	令和元年度	平成30年度
延4,208人	延5,143人	延5,572人

(3) グループホーム

ア グループホーム（共同生活援助）

令和2年度	令和元年度	平成30年度
延1,250人	延1,281人	延1,179人

イ ショートステイ（短期入所）

令和2年度	令和元年度	平成30年度
延1,108人	延1,255人	延1,153人

(4) 生活介護事業

令和2年度	令和元年度	平成30年度
延1,884人	延1,973人	延2,081人

5 収支の状況

収 入		支 出	
指定管理料	270,203,000円	人件費（退職給与引当金含む）	192,650,783円
運營業務受託料	1,524,949円	事業費	19,673,212円
自立支援費等収入	60,457,404円	事務費	74,107,275円
その他の収入（家賃等）	1,119,023円	その他の支出	9,587,300円
合計（①）	333,304,376円	合計（②）	296,018,570円
収支差額（①－②）	37,285,806円		

6 指定管理者による自己評価

サービス提供に関して	収支に関して
<p>令和2年度の新たな取り組みとして、日中一時支援事業（レスパイト、タイムケア）を開始しています。基幹相談支援事業は、千代田区での基幹的な役割を担い、相談支援体制の強化をしています。日中一時支援事業は、従来のスマイルちよだの他にレスパイトとタイムケアという性質の異なる2つのサービスを追加し、利用者のニーズに合わせて利用出来るようにしています。</p> <p>当初から、コロナウイルスの影響から、サービス内容の変更を余技なくされましたが、利用者の生活を止めないことを目標に、感染予防対策を行い、代替えサービスに切り替えるなどして、サービスを継続しました。コロナウイルスの影響、利用者の高齢化等もあり、来所してでの参加は減少傾向にありましたが、代わりに相談件数が増えたことが、利用者の増加に繋がっています。このことから相談支援は、地域生活において、重要な役割の一つであると言えると思います。交流人口（利用者＋一般区民、ボランティア、実習生、事業に参加するわけではない利用者）は、16,682名と昨年の14,430名と比較して、2,252名の増加でした。次年度は、相談支援体制を構築させると共に、コロナウイルスを想定したサービスを充実させ、さらなる交流の場を提供していきます。</p>	<p>令和2年度は、施設会計が12期目になり、千代田区の指定管理料は総収入額の81.06%でした。自立支援費等収入は共同生活援助、短期入所、相談支援、生活介護の障害者総合支援法の報酬や利用者自己負担金収入、入浴サービス等の利用者利用料などが主な収入です。運營業務委託料は、家賃助成収入・療浴助成収入等で、その他の収入はコピー機利用料収入・実習生受入収入・感染症対策助成金が含まれています。</p> <p>また、正職員が1名増加しましたが、契約職員が2.5名減少した為、人件費は減少しました。</p> <p>令和元年度と比較して、収入は、指定管理料787,000円、運營業務受託料113,649円の減少、自立支援費等収入1,435,653円、その他の収入114,969円の増加で合計1,550,622円の増加となりました。グループホーム利用者の区分変更や特定相談のモニタリング数が増えたことが要因として考えられます。</p> <p>支出は、人件費7,251,732円、事業費19,673,212円、事務費8,650,839円の減少、その他の支出1,874,612円の増加で合計17,143,899円の減少となりました。</p> <p>特にコロナウイルス感染拡大の影響で行事が最低限に縮小となったこと、大規模な修繕が検討できなかったことなどが要因です。</p> <p>今後も事業内容の精査や効果を図りつつ、収支の安定を図っていく方を検討します。</p>

7 区としての評価・今後の方向性

指定管理の2期目の初年度からコロナ対応など法人としても迅速に検討、対応できていることは評価に値する。またよろず相談MOFCAや区内相談支援事業所への働きかけを行い、連携を深めている。えみふるでは2030年度までのロードマップに基づきレポートを毎年作成し、目標にどれだけ近づいているかを「見える化」しているため利用者、職員、区も長期的な共通認識を共有出来ている。